

特集

「つまらない」授業よ、さらば！

「授業は学習の場。おもしろい、つまらないで計れるものではない」。もしそう思い込んでいる先生がいるとすれば、その方は「おもしろい」授業を受けたことがないのではないのでしょうか。たいていの人は、自ら学ばなければ、自分が受けた方法でしか教えることができません。ですので、「おもしろい」授業を行うには、「おもしろい」授業を受ける必要があると思います。ここで言う「おもしろい」は愉快という意味ではなく、興味を引く、すなわち英語で言うところの「interesting」と考えてください。

もちろん看護教育が専門教育である以上、初等教育とは違い、学生は自ら望んで学んでいることでしょう。だとしても、学習効果を上げるためには、一方的な講義だけでは不十分だということは、わかりだと思えます。では、いったいどうすればいいのか？

今回は、実際に授業を「おもしろく」している方々に、自らの経験をふまえたうえで、いかに学生の気持ちを引き出し、学習効果を上げるかについて、提言いただきます。実際の授業を見ていただくのがいちばんではあるのですが、誌面からさまざまな工夫を汲み取ってみてください。加えて、これをきっかけに、先生方がお互いに授業を見せ合ったり、方法について話し合ったりする機会が増えれば幸いです。